# 宗佐遺跡調査成果の概要

1 遺 跡 名 宗佐遺跡 (そうさいせき)

2 遺跡の種別 集落遺跡 (奈良時代は官衙的な性格)

3 遺跡の時代 弥生時代~古墳時代、奈良時代、平安時代、鎌倉時代

4 所 在 地 加古川市八幡町宗佐

5 調査面積 約4,000 m²(A地区:約1,000 m²、B地区:約3,000 m²)

(A 地区については調査終了のため埋戻し済み。B 地区は調査中)

6 調 査 期 間 6月5日~10月31日(予定)

7 調 査 原 因 東播磨南北道路北工区(主要地方道加古川小野線)道路改築事業

8 調 査 主 体 兵庫県教育委員会

9 調査機関 (公財)兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

久保弘幸副課長 、新田宏子技術職員

## 10 調査の概要

### (1)遺跡の立地

宗佐遺跡は、加古川左岸の標高 18~19mの扇状地上に立地する。遺跡の東には標高約 40mの段 丘があり、遺跡の西約 1km の加古川本流との間には沖積平野が広がっている。

#### (2)遺跡の概要

宗佐遺跡は、東播磨南北道路の建設に先立つ確認調査で新たに発見された。これまでの調査で、 上下2面から遺構が検出され、下層面では弥生時代後期~古墳時代初頭、上層面では奈良時代~平 安時代初頭、平安時代後期~鎌倉時代の、合計3時期にわたる遺構・遺物がみつかっている。

## 【弥生時代後期~古墳時代初頭】

A 地区で竪穴住居 1 棟、土坑、溝などが検出されたほか、B 地区では焼土面、土坑などが検出されている。集落遺跡と推定される。B 地区では、現在、上層面の調査をおこなっており、下層面の調査に至っていないため、全体の状況は不明である。

これまでに出土した土器は、弥生時代後期末~古墳時代初頭という、時代の変革期にあたるものであり、この時期にどのような集落が営まれていたのかが注目される。

#### 【奈良時代~平安時代初頭】

A 地区で掘立柱建物跡 2 棟、土坑などが検出されている。B 地区でも柱穴が検出されていることから、同様の建物群が存在するものと思われる。

A 地区の掘立柱建物跡 2 棟は、東西方向の大型建物跡 (3間×5間、約 12×6m)と、その西に位置する南北方向の建物跡 (2間×4間、約 8.6×4.3m)である。この 2 棟は建物の北辺が一直線上にあることから、同時に計画的に建てられたものと考えられる。また、建物の規模も大きいことから、通常の農村集落ではなく官衙的性格を帯びたものと推定される。

これを裏付けるように、須恵器の硯(風字硯 1 点、杯を転用した硯 2 点) 3 点が出土している。転用硯のうち 1 点には水銀朱が付着しており、朱墨を磨ったものと思われる。また少数だが、瓦も出土している。

## 【平安時代後期~鎌倉時代】

B 地区で、5棟の掘立柱建物跡のほか、土坑、溝が検出されている。これらは 11 世紀後半~13 世紀の集落と考えられ、B 地区南部では、同じ時期の水田跡も検出された。

掘立柱建物跡の柱穴の中には、多数の土器を埋めたものが見られ、建物の解体に伴う祭祀がおこなわれた可能性がある。

この時期は、大規模な開墾が広く進んだ時期であるとともに、東播磨地域では須恵器生産が盛んになった時期でもある。宗佐遺跡はそのような時代的・地域的背景のもとに成立した集落であったと思われる。

#### 11 ま と め

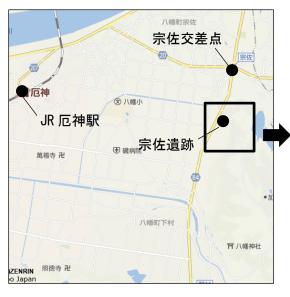
(1) これまでの調査成果の中で注目されるのは、奈良時代~平安時代初頭の建物跡群である。遺構の性格については、建物が規格性をもって配置されていることや、文書を作成するのに必要な硯の存在などから、①地域(郷)を統治する長の居館、②寺院の管理などに関連する施設、③加古川の水運に関連する施設、等の可能性が考えられる。

当地は、古代の播磨国の賀古郡と美嚢郡との境界近くにあたり、『播磨国風土記』に記された 賀古郡の「望理里(まがりのさと)」に属するとされている。しかし近隣では、これまでに奈良 時代の遺跡は見出されておらず、宗佐遺跡の発見は、当地域の歴史に新たな成果をもたらすもの である。

(2) 現在調査中であるが、今までのところA・B両地区合わせて1,000 個以上の遺構と収納箱約100 箱の遺物を発見した。

# (3) 主な遺構と遺物

時 代	遺 構	遺物
弥生時代後期	竪穴住居跡1軒	弥生土器・古式土師器
~古墳時代初頭	土坑	
	溝	
		須恵器(硯)・土師器・瓦・
奈良時代~平安時代初頭	掘立柱建物跡 2 棟	鉄器 (器種不明)
	土坑	
平安時代後期	掘立柱建物跡 5 棟	須恵器・土師器・青磁・白磁・
~鎌倉時代	貼床状遺構(建物の土間	鉄器 (鉄釘)
	カュ?)	
	土坑	
	溝	
	水田	





宗佐遺跡 調査位置図



写真 1 規則正しく並ぶ掘立柱建物 (奈良時代/A地区/空中写真)



写真 2 大型の掘立柱建物 (奈良時代/A地区)



写真3 土坑内の土器(弥生時代/A地区)



写真 4 柱穴内の土器 (鎌倉時代/B地区)